

事業報告書

令和元年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

《 目 次 》

- I 法 人 の 概 要 1~3P
- II 介 護 老 人 福 祉 施 設 4~24
- III 短 期 入 所 生 活 介 護 事 業 25~26
- IV 通 所 介 護 事 業 27~32
- V 小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護 事 業 33~37
- VI 居 宅 介 護 支 援 事 業 38~39
- VII 在 宅 介 護 支 援 セ ン タ ー 40~41

I 法人の概要

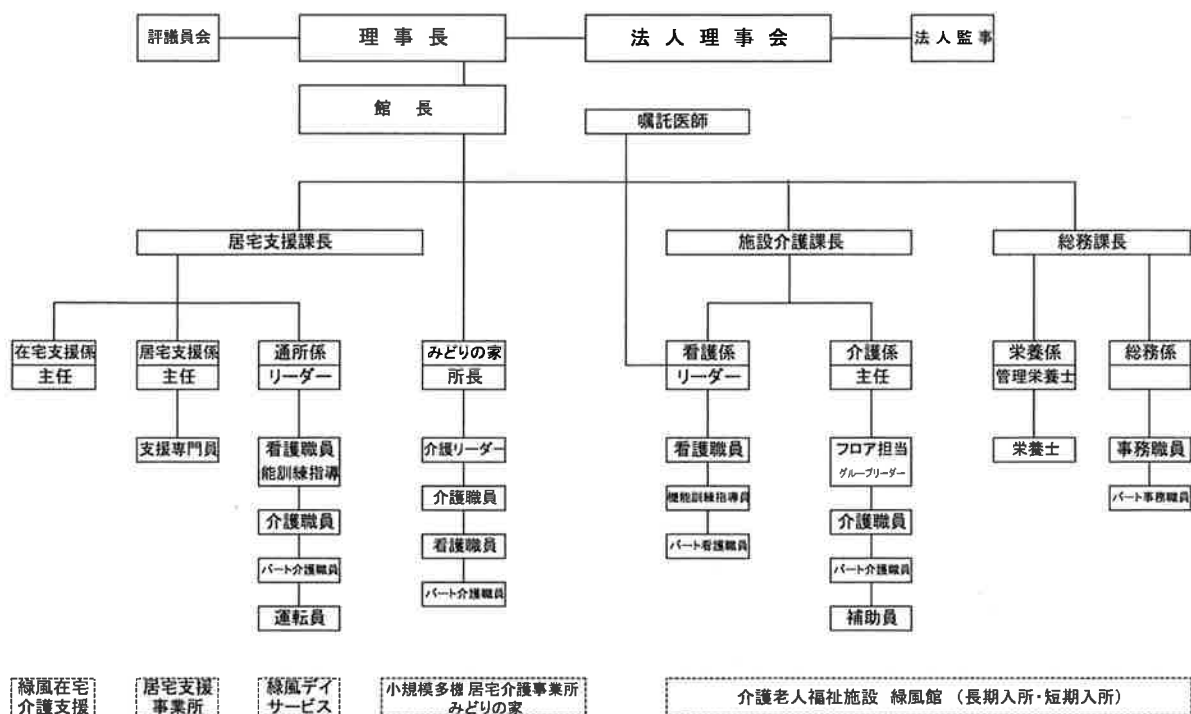
1 名称及び所在地

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

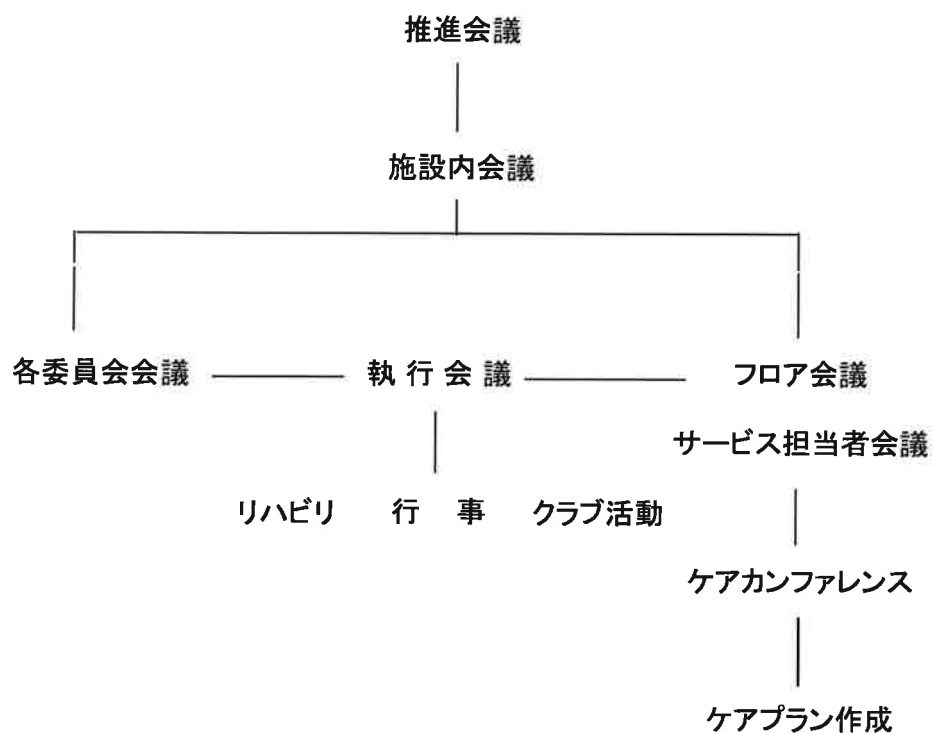
2 法人の組織

令和2年3月31日現在

緑 風 会 組 織 表



3 業務の運営体制



4 職員の勤務体制

事務職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
ケアワーカー	早出	A M 7:00 ~ P M 4:00
	日勤	A M 10:00 ~ P M 7:00
	夜勤	P M 5:30 ~ A M 10:30
看護職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00

5 職員配置

〔1〕事業別職員配置

令和2年3月31日現在
()は、常勤換算人数

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館		通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支援 緑風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介護支 援センター		合 計		
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合 計 人 数
施設長	1										1	0	1
管理者			施設長兼務		施設長兼務		1			施設長兼務	1	0	1
事務 職員	2	2 (1.1)									2	2	4
相談員	1		1.5						1		4	0	3.5
介護支援 専門員	0.5 <small>ケアワーカー兼務</small>				2	1 (0.8)					2.5	1	3.5
ケアワ ーカー 【うち介 護福祉 士】	19.5 【12】	18 (9.3) 【4】	1.5 【1】	6 (5.3) 【1】			3 (3) 【2】	11 (6.0) 【3】			24 【20】	35 【5】	59 【25】
看護 職員	2	6 (2.9)	2	1 (0.8)			1 (1)				5	7	12
機能訓練 指導員	1										1	0	1
栄養士	1	1 (0.7)									1	1	2
嘱託 医師		1									0	1	1
その他		4 (2.1)									0	4	4
合計	28	32 (16.1)	5	7 (6.1)	2	1 (0.8)	5	11 (6.0)	1	0	41	51 (29.0)	92 (70.0)

Ⅱ 介護老人福祉施設

1 施設の概要

- [1] 名称 特別養護老人ホーム 緑風館
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開設 平成6年6月20日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 定員 60名
- [6] 土地・建物
 土地面積 2,742.36㎡
 建物構造 鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階)
 建物延面積 3,020.41㎡

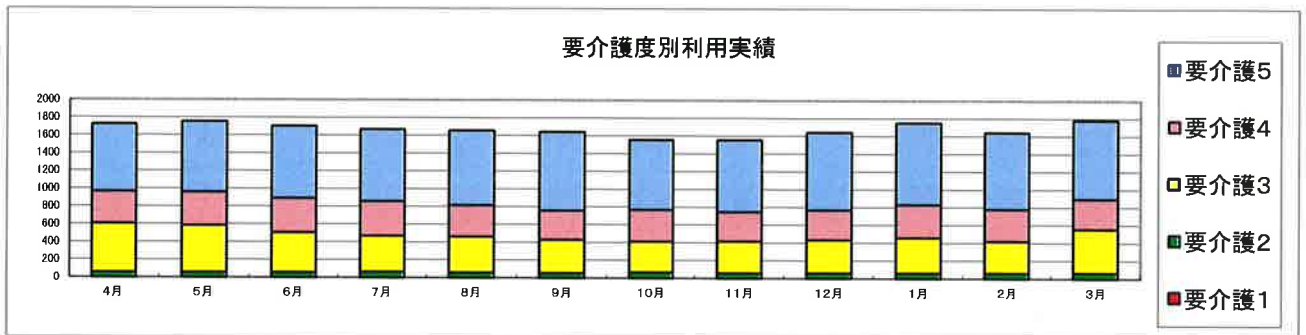
2 入所者の状況

[1] 月別入退所者数

区分	平成 6~ 30年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	令和 元 年度計	累計	男	女
入所者数	424	1	0	3	0	2	2	2	0	0	6	2	3	21	445	122	323
退所者数	364	2	1	1	0	5	0	2	1	1	4	3	1	21	385	109	276
月末 在籍 者数	/	59	58	60	60	57	59	59	58	57	59	58	60	/	/	/	/

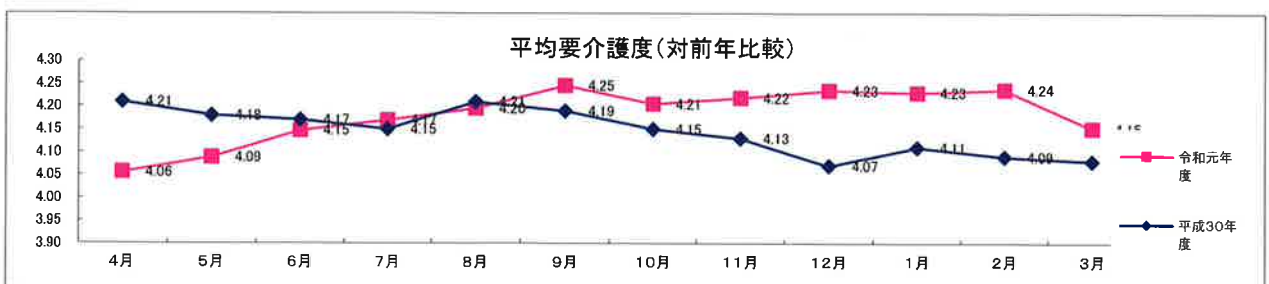
[2]要介護度別利用実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和元年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要介護2	人	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
		延	56	57	55	62	57	54	62	55	59	60	58	62	697
	要介護3	人	19	18	16	15	15	14	14	13	13	14	16	19	186
		延	550	527	450	404	402	374	347	360	374	396	358	491	5033
	要介護4	人	13	13	14	14	14	11	13	13	12	15	13	11	156
		延	359	373	386	391	357	330	357	330	333	374	362	341	4293
	要介護5	人	27	26	29	29	31	32	32	31	31	32	30	29	359
		延	759	796	811	811	840	885	790	810	877	918	862	886	10045
	合計	人	61	59	61	60	62	59	61	59	58	63	61	61	725
		延	1724	1753	1702	1668	1656	1643	1556	1555	1643	1748	1640	1780	20068
	平均介護度		4.06	4.09	4.15	4.17	4.20	4.25	4.21	4.22	4.23	4.23	4.24	4.15	4.18



平均要介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	4.21	4.18	4.17	4.15	4.21	4.19	4.15	4.13	4.07	4.11	4.09	4.08	4.15
令和元年度	4.06	4.09	4.15	4.17	4.20	4.25	4.21	4.22	4.23	4.23	4.24	4.15	4.18



〔3〕入所期間別状況

(令和2年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	4	1	4	2	2	0	13
女	7	7	11	8	13	1	47
合計	11	8	15	10	15	1	60

平均入所期間	3年0ヶ月
--------	-------

〔4〕年齢別分布状況

(令和2年3月31日現在)

区分	65～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	2	1	1	4	5	0	0	13
女	0	4	5	14	14	8	2	47
合計	2	5	6	18	19	8	2	60

平均年齢	男性 84 歳	女性 89 歳	平均 88 歳
------	---------	---------	---------

最少年齢	68 歳
------	------

最高年齢	102 歳
------	-------

〔5〕身元引受人状況

(令和2年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	甥・姪	成年後見人	合計
人数	6	49	1	4	60

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	9(7)	6	6	0	21

〔7〕入所前居住場所調

区分	在宅	療養 病院	老健 施設	療養型 施設	その他	合計
入所者数	14	4	3	0	0	21

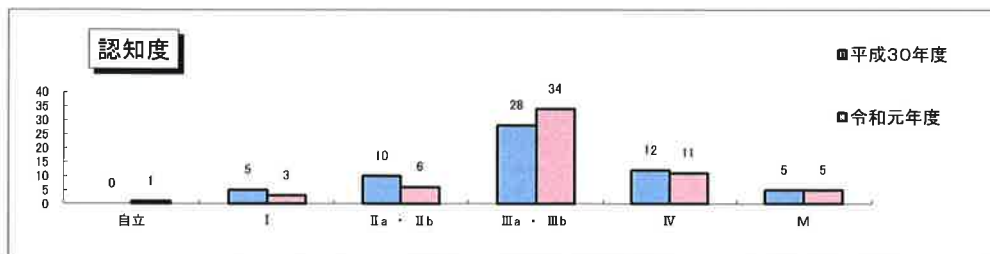
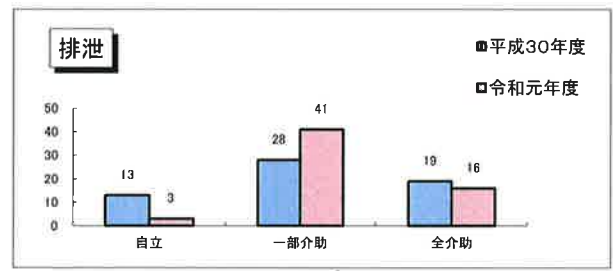
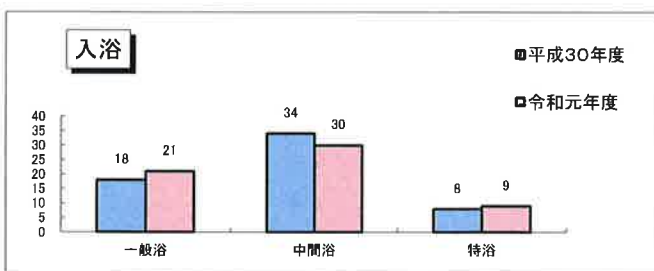
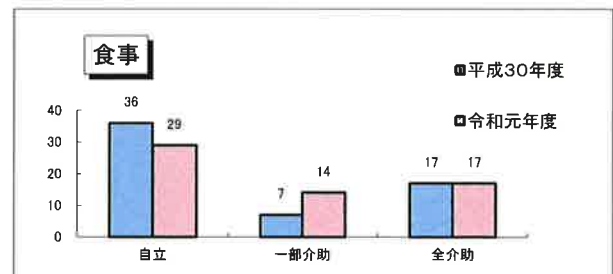
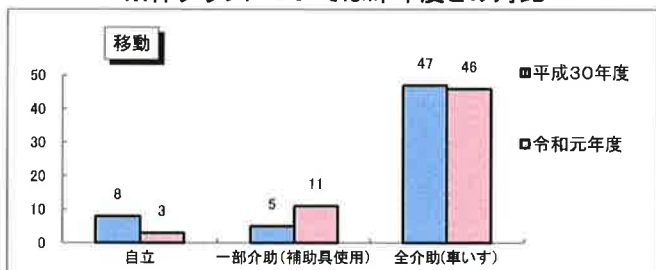
※()内は看取り介護の数

[8]入所者の日常生活・認知度状況

(令和2年3月31日現在)

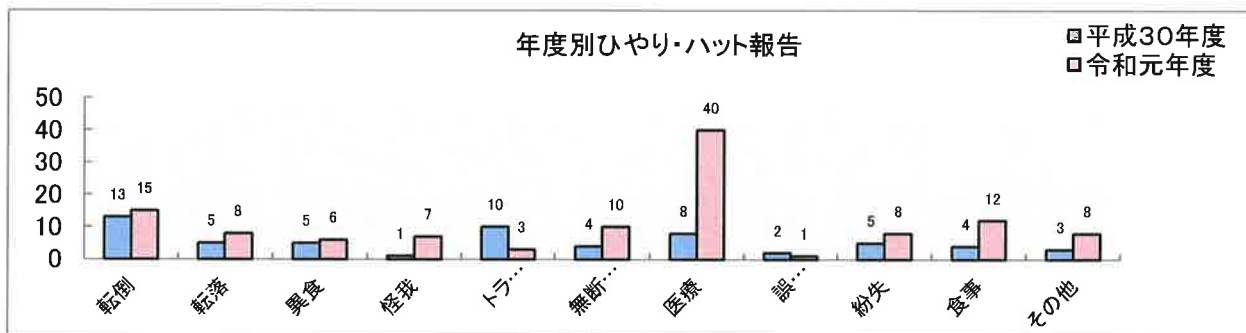
区分		平成30年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	8	0	1	2	3	5%
	一部介助(補助具使用)	5	4	1	6	11	18%
	全介助(車いす)	47	13	22	11	46	79%
食事	自立	36	7	13	9	29	48%
	一部介助	7	6	4	4	14	23%
	全介助	17	4	7	6	17	28%
入浴	一般浴	18	6	5	10	21	30%
	中間浴	34	10	15	5	30	50%
	特浴	8	1	4	4	9	15%
排泄	自立	13	0	2	1	3	5%
	一部介助	28	12	17	12	41	68%
	全介助	19	5	5	6	16	27%
認知度	自立	0	1	0	0	1	2%
	I	5	0	3	0	3	5%
	Ⅱa・Ⅱb	10	1	4	1	6	10%
	Ⅲa・Ⅲb	28	12	9	13	34	57%
	Ⅳ	12	3	5	3	11	18%
	M	5	0	3	2	5	8%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	13	1	4	1	0	3	1	1	0	0	1	1	2	15
転落	5	1	0	1	1	2	0	1	0	0	1	0	1	8
異食	5	0	1	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0	6
怪我	1	0	1	0	3	1	1	1	0	0	0	0	0	7
トラブル	10	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
無断外出	4	1	3	0	1	0	0	0	1	0	1	3	0	10
医療	8	2	1	4	4	4	3	1	5	4	2	5	5	40
誤嚥・誤飲	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
紛失	5	0	2	0	0	0	3	0	1	1	0	1	0	8
食事	4	0	1	0	1	3	2	1	2	2	0	0	0	12
その他	3	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0	2	1	8
合計	60	6	14	7	11	16	13	5	11	7	6	13	9	118



[10] 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	令和1年6月8日	転倒	左鎖骨骨折	男	翠鳳第一病院	無
2	令和1年6月18日	転倒	左大腿骨骨折	女	淡路医療センター	有
3	令和1年6月21日	転倒	左鎖骨骨折	男	翠鳳第一病院	無
4	令和1年6月30日	特定できず	右上腕骨頸部骨折	女	翠鳳第一病院	無
5	令和1年7月4日	転落	裂傷	女	淡路医療センター	無
6	令和1年9月13日	転倒	左大腿骨骨折	女	淡路医療センター	有
7	令和2年1月4日	特定できず	窒息	男	淡路医療センター	無
8	令和2年1月19日	転倒	裂傷	男	淡路医療センター	無
9	令和2年3月29日	特定できず	右上腕骨頸部骨折	女	洲本伊月病院	無

[11] 苦情・要望状況

苦情	12件
要望	1件
意見	3件

家族から	11件
利用者から	2件
事業所から	3件

3 総務係

(1)今年度は、事業活動資金収支差額 2,696万円を確保し、将来の施設整備の為、1千万円を積み立てた。

- ① 物品及び業者の一覧表を随時更新することで効率的な購入を実施した。
- ② 従前の処遇改善加算に加え、10月から新たに特定処遇改善加算を取得、また7月から居宅支援事業所で、特定事業所加算Ⅲを取得した。

(2)設備整備を計画的に実施

- ① 今年度の設備整備は、特養のベッド15台(購入額418万円 兵庫県助成金99万円)、介護ソフト5年使用権(購入額454万円)、パソコン機器16台(購入額225万円)、みどりの家の消防通報装置(購入額68万円 助成金49万円)みどりの家電子錠(購入額32万円)を購入した。
- ② 当初計画した設備整備ではベットと介護ソフトを購入、電気ケーブルの修繕を実施した。

(3)法人及び経営情報を公表

- ① 現況報告書等(現況報告書、計算書類)の情報を公表した。また、ホームページに財務諸表(緑風だよりにも掲載)及び事業報告書と事業計画書を公表した。
- ② 令和元年度は、ホームページを更新し、行事等をブログで発信した。

(4)社会福祉法人として地域貢献活動を実施

- ① 緑風館で実施されている百歳体操の参加者や地域サポート利用者や家族、居宅ケアマネ等との情報交換により地域住民等のニーズの把握に努めた。
- ② 地域サポート施設の活動として地域高齢者の見守りとして、高齢者9人に実施した。見守り訪問は、年延べ141件、外出支援(医療機関・買い物・金融機関への付き添いや不在者投票等)年延べ45件、安否確認(来館・電話)年延べ123件実施した。

(5)人材の確保

- ① 島内6高等学校及び神戸の専門学校を訪問した結果、令和2年度には、3名の新卒者が入職した。
- ② 職員の資質向上を図るため次表のとおり外部研修会に参加した。

研修内容	特別養護老人ホーム	デイサービス	みどりの家	居宅介護支援事業所	支援センター	合計
ケアプラン関係	2					2
認知症	13			1		14
医療・レク・終末期ケア	8	1	1			10
食事・給食業務	9					9
リスクマネジメント	4					4
行政・保険・法改正	16	2		2	5	25
総務・財務・事務	3					3
ケアマネ	1			34	9	44
資格取得・スキルアップ・人材育成	23	1	6	2	2	34
地域サポート・ケア	7			5	12	24
サービス評価	7					7

その他	4		1	1		6
合計	97	4	8	45	28	182

4 栄養係

(1) 栄養ケア・マネジメント

① 褥瘡予防及び発生後の栄養管理の強化については、たん白質・鉄・亜鉛・ビタミンCを強化したCP-10ゼリーを提供した。

② 疾病に応じた食事提供については、以下のとおり提供した。

療養食内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
糖尿食	実人数	6	6	6	6	6	6	6	5	5	6	4	4	66
	延べ食数	332	530	529	558	555	521	383	444	462	382	346	309	5351
心臓食	実人数	13	13	13	13	14	15	14	13	11	12	12	11	154
	延べ食数	858	1120	1161	1200	1262	1301	1280	1080	966	1001	874	975	13078
腎臓食	実人数	4	4	4	4	3	2	3	3	3	5	5	5	45
	延べ食数	264	372	360	317	236	180	208	270	279	352	435	465	3738
肝臓食	実人数	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3	3	3	31
	延べ食数	198	279	270	214	186	180	186	180	186	200	261	279	2619
脾臓食	実人数	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	28
	延べ食数	198	279	270	211	186	180	186	180	186	186	174	186	2422
貧血食	実人数	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	延べ食数	66	93	90	93	0	0	0	0	0	0	0	0	342
合計	実人数	30	30	30	30	27	27	27	25	23	28	26	25	328
	延べ食数	1916	2673	2680	2593	2425	2362	2243	2154	2079	2121	2090	2214	27550

③ 自然排便への取り組み継続については、排便状況を観察し、定期的に評価した。

④ 口腔機能及び嚥下機能にあわせた食事提供については、内科医師と歯科医師の指示のもと経口維持(I)(II)を計画、実施した。

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	I	20	19	21	20	20	19	18	17	19	21	23	20	237
	II	17	18	21	20	20	19	17	17	19	21	23	20	232

⑤ 夏期(7月~9月)の脱水症予防としては、毎日定時に水分補給ジュースを提供した。

(2) 感染症予防及び食中毒予防

① 職員の手洗い及び日々の体調維持管理の徹底については、こまめな手洗いとうがいをし、委託業者の体調確認は個人衛生管理表で確認した。

② 発生状況の把握と早期の予防対策強化については、感染症が発生した時には委託業者とともに情報を共有し、感染防止に努めた。

③ 4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)の推進については、食品庫内の整理整頓を行い賞味期限内で使用できるよう努めた。食品庫内で使用するケースの清掃をし、清潔な状態で保管できるように努めた。

- ④ 安全な環境の下で食事提供するため、配膳室等自主点検を行うことについては、介護職員と栄養士により配膳室の確認を行った。

5 介護計画係

(1) 多職種連携による情報収集、分析

① 定期的なサービス担当者会議、ケアカンファレンスの開催

「令和元年度 職種別サービス担当者会議参加実績（年間開催日数36回）」

職種	介護支援専門員	生活相談員	看護職員	管理栄養士	介護係主任
出席回数	36回	36回	20回	19回	36回
出席率	100%	100%	56%	53%	100%

上表の通り、サービス担当者会議を定期開催することで利用者一人ひとりの課題を細かく検討し、専門性をもった視点で計画化することができた。

「ケアカンファレンス 本人及び身元引受人の参加実績」

区分	平成30年度	令和元年度	前年対比
開催回数	132回	135回	3回増
本人 参加回数	6回	8回	2回増
身元引受人 参加回数	129回	131回	2回増
本人及び身元引受人 参加率	100%	99%	1%減

「ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳」

区分	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟姉妹	甥・姪	成年後見人	その他	本人	合計
参加延人数	8名	101名	51名	7名	0名	2名	6名	3名	8名	186名
割合	4%	54%	28%	4%	0%	1%	3%	2%	4%	100%

- ② ケアプランの見直しや家族との相談支援を綿密に行うことで身元引受人との信頼関係を深めることができた。また、家族からの土日祝日の日程希望もあり柔軟にスケジュールを調整することができた。（カンファレンスの日程変更35件）

(2) 継続的かつ根拠のある課題分析

① 「令和元年度 アセスメントツールの活用実績」

アセスメントツールの種類	気づきシート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外	包括自立支援プログラム
延利用者数	112名	109名	5名	12名

利用者個々の状態に合わせた多様な書式の活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い、生活の質の向上に繋げることができた。

- ② 認知症ケア委員会と連携し、精神・行動支援のケアプランを提供することができた。また、スムーズな排便への取り組みは排泄委員会と連携し、積極的なケアに繋がっている。

(3) ケアプラン実施に対する定期的な効果検証

- ① ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは50名について実施し、効果検証を行っ

た。うち、定期更新以外の適時の変更については24名分のケアプラン変更を実施することができた。

- ② 毎月のモニタリングは担当職員が行い、介護支援専門員が確認している。また、モニタリング実践記録表についても担当職員が毎月記入して、介護支援専門員が確認をしている。

6 生活相談員

(1) 利用率目標値の達成

① 「長期入所、短期入所の利用率実績」

長期入所	短期入所	特養全体
91.38%	129.94%	96.97%

(2) 定期的な事業所訪問と情報交換

① 「関係機関への訪問件数」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
13件	12件	12件	11件	10件	9件	9件	10件	11件	9件	9件	9件	124件

「関係機関との情報交換」

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18件	20件	17件	16件	18件	16件	15件	22件	19件	21件	21件	18件	221件

(3) 住民及び他事業所への空床状況案内

- ① 空床状況表の更新について、5月、9月、10月、2月のみの更新にとどまった。

短期入所の空きに余裕がない時は更新に踏み切れなかったことが原因と考える。

- ② 関係機関へは、年4/回の空床状況表を配布することができた。

- ③ 緑風館ホームページに年4回、アップデートをした。

(4) 社会資源との結びつきに対する工夫

- ① 各種関係機関等との連携を図ることで、利用者の笑顔に繋がっている。特に行事やレクリエーション等で、南あわじ市老人クラブ連合会、広田保育園・小学校、倭文保育園、小学校との交流ができた。

- ② 南あわじ市の事業「おもいやりポイント制度」等を活用し、有償ボランティアとして積極的に受け入れを行っている。

- ③ 施設内ホールの住民への開放を目指し推し進めてきたが、「いきいき百歳体操」の使用のみであった。

④ 地域との関わり、馴染みの場所への外出支援

花見会	9名	ふくちゃん祭り	7名
日帰り旅行	7名	初詣	7名
広田地区敬老会	2名	ふるさとツアー	3名

7 1階介護係

(1) 安心、安全面への追及

- ① フロア会議内では毎月各種発見報告や、ひやりハット報告の検討を行い、正規職員

への周知徹底はできたが、非常勤職員への意見徴収ができず、報告のみとなった。
今後全職員の意見を聞き取ることが課題となった。

- ② 毎月個別ケース検討を行い、フロアでの居場所や、職員からの関わり方、手作業、レクリエーションを実施することで、安心につながる個別ケアの支援ができた。
- ③ 環境づくりとして、見守りやすいようにソファ位置の変更を行い安全への配慮ができた。
- ④ 食事用具や食事席の検討を毎月のフロア会議の議題に挙げることで、見直しと検討を実施することができた。また、食事介助時の職員配置を都度検討し変更することで食事時の見守りや事故防止に努めることができた。

(2) レクリエーションの充実

- ① 利用者個々に応じた生きがい支援として、フロア行事の他に、ボール投げ・体操・壁紙作成・工作・散歩・しりとり・カラオケなどを実施した。利用者それぞれの心身状態に合わせた生きがい支援を行うことができた。
- ② フロアの飾りつけ工作として、桜や梅雨、七夕、ハロウィン、紅葉など季節に応じた工作を行うことで、手指運動だけでなく、季節の移り変わりを感じることもできた。
- ③ 各種フロア行事の見直しとして、定期行事以外に庭での花見会、ボウリング、アイスクリーム作り、ドライブ、風船バレー、たこ焼き作りフルーツジュース作り等、新たに計画、実施することができた。ただし、人員確保ができず実施できなかった月もあった。

(3) 情報の共有化

- ① 各種書類と連絡帳の活用を行うことで、日勤職員と早出職員、夜勤パート職員の間での連絡ミス防止や申し送りの徹底に繋がった。また活用されていなかったホワイトボードの使用方法を見直し、書類整理や必要事項の記入等に繋がった。
- ② 情報共有に向けての書式を検討し「利用者の概略」「夜間の特記事項」「排泄」「食事」「入浴」「ケアプラン」等についての一覧を、改めて1つのファイルにまとめて見やすく更新したが定期的な更新が難しく、活用までは至らなかった。

8 2階介護係

(1) 安全で安心できる環境づくり

- ① 各種発見、ひやりハット報告書等をもとに検討し、対策を打ち出すとともに、家族や利用者を交えてケア内容を見直すことで、事故予測と再発防止に努めた。
- ② 10月から加湿器を設置し、温度・湿度管理を行うことでインフルエンザ等の感染症発生を未然に防ぐよう努めた。結果、今年度はインフルエンザ等の感染症の発生はなかった。また、体調変動時(熱・咳・鼻水等)の際には他職種連携を図り、早急な個室対応及び隔離対策を講じることができた。
- ③ 古いソファの買い替えを2台分実施することができた。

(2) その人らしさの追求と自立支援

- ① 利用者との良好な関係性を構築することで、その方の趣味や嗜好の把握ができ、塗り絵や作品作りを提供し実施することができた。

② 支援の中で利用者に選択肢への配慮を行っている。また、水分提供時には4種類の
中から好みの飲み物を選んでもらう等の配慮が行えた。

③ 趣味や嗜好に合ったレクリエーションを実施することで、楽しむことができた。

4月	外出(散策)2回	8月	フルーツポンチ作り	12月	DVD鑑賞
5月	思い出話	9月	DVD鑑賞	1月	ミニ喫茶(2回)
6月	淡路島クイズ	10月	魚(折り紙)釣り	2月	おやつ作り(パンケーキ)
7月	ドライブ	11月	ミニ喫茶	3月	シルエットクイズ

(3) 個別ケアの充実

① 課題抽出用の書式(センター方式)を活用し、精神症状や行動の原因、排泄パターン
を把握でき、生活の質の向上に繋げることができた。ただし、1事例の活用にとどまった
ため、今後の活用方法には検討が必要。

② フロア会議、サービス担当者会議では、ケア内容を個別に検討し情報共有をする
ことができた。適時ケア内容の変更においても、他職種連携を図ることができ、より良
いケアを実施することができた。

(4) 居室担当制の強化

① 居室担当者が居室の整理・整頓・清掃を徹底して行うことで、衛生保持や安全性向
上に繋げた。

② 居室担当者が中心となり利用者、家族が持参した物品、クラブや趣味を活かした作品
等をレイアウトし飾ることにより、その人らしく、馴染みの部屋づくりができた。

9 3階介護係

(1) 安心・安全な生活の場を提供

① 居室の環境整備について、利用者にとって使いやすく、また安全に過ごせるよう、その
都度居室のベッド、タンスの位置は変更してきた。また食堂についても、利用者が食べや
すく、また安全に見守れるように、テーブル位置や椅子等を変更した。

② 事故や各種発見については、あざ等のリスクが発生した時には早期に原因を追究、対
応策を検討し、フロア職員で共有し実施する事で予防に繋げた。ひやりハットについても、
気づき等があれば提出し、フロア職員で共有することでリスクの軽減に繋げた。

(2) 質の高いケアの実現

① 報告・連絡・相談については、連絡帳を活用し、申し送ることで、情報の共有に努めた。
また、ケアの見直し等の相談については、他職種(看護・栄養等)と連携を密にとること
により、より深くケアに繋げることができた。

② 各専門分野での課題については委員会で検討し、フロアで改めて周知し、職員間で共
有することで連携を図った。

③ センター方式アセスメントシートやポジショニング・シーティングシートを活用することで
課題を抽出し、対応策を考える事により解決に繋げ、また結果についても検証できた。

④ コミュニケーションを積極的に行う事で、要望や相談等を聞き取る事ができ、より良い
ケアに繋げることができた。

(3) 楽しく生きがいのある生活を支援

- ① 月行事のレクリエーションとしておやつ作り、カラオケ等を組み込み、年11回実施することができた。一日が楽しく過ごせるように配慮した。
- ② 年4回、利用者・職員が共同で作品を作り、フロアに飾ることで四季を味わって頂けた。

10 看護係

(1) 嘱託医との連携による健康管理

- ① 利用者個々の既往歴については、入所時や病変時等に生活相談員及び介護支援専門員、嘱託医と連携を図ることで状況把握に繋げている。体調不良時には嘱託医に報告を行い指示を仰ぎ、適切な対応が実施できた。
- ② 定期血液検査や健康診断、各種予防接種のサポートは確実に実施できた。

血液検査	72名	健康診断	66名
インフルエンザ予防接種	52名	肺炎球菌予防	1名

(2) 感染症等の予防

- ① マスク、手指消毒液等の備蓄は、残数をチェックし追加発注を行い、使用喚起に努めた。
- ② 感染予防マニュアルの確認と周知を徹底した上で、手洗い、うがい、手指消毒の啓発を徹底して行った。

(3) 床ずれゼロの推進

- ① 各種発見等の活用により、早期発見に努め、治療を行うことで、早期に治癒している。
- ② 連携による床ずれの早期発見により、年間床ずれ発生件数8件のうち6件が治癒した。

(4) 看取りケアの充実

- ① 看取りケアの支援方法や行程を嘱託医と交えて、ケアマニュアルを見直し更新することができた。
- ② 嘱託医、各専門職との連携を図ることで、7名の利用者の看取りサポートができた。
- ③ その人らしい最期を迎えられるよう、本人、家族の意向を尊重し、看取りサポートができた。嘱託医からの相談や説明についても、その都度本人や家族に希望等を確認し、必要に応じて対応している。

(5) 機能訓練計画の策定と実施

- ① 個別機能訓練計画書は、3ヶ月毎に評価と見直しを実施した。利用者の心身の変化があれば、都度計画書の見直しを行っている。

機能訓練計画書 更新件数	1階フロア	2階フロア	3階フロア
	66件	97件	69件

- ② 担当者をはじめ介護支援専門員、生活相談員と更新の度に相談し検討を行うことで、利用者個々に合った計画の策定、実施を行っている。

11 リスクマネジメント委員会

(1) 危険予測、事故事例の情報集約と統計分析

- ① リスクマネジメントについて、情報集約力の強化を目指し、事業所毎の全体集計をとる

ことで、ひやりハットの各報告件数について増加があり効果があった。また、様々な事業所の事例を共有することで、あらゆる視点から認識することができた。

事故に至らない軽微なものは、報告書を集約し統計をとることで事故予防に努めた。

各種発見	521件	ひやりハット	118件	気づき	215件
------	------	--------	------	-----	------

- ② 各部署ごとの会議を毎月1回行い、事故報告書等の分析と個別ケア検討を実施することで再発防止に努めた。また、リスクマネジメント委員会も毎月行うことで、法人内での情報共有に繋げることができた。事故件数(市への報告事故)は9件であった。
- ③ 気づき力の強化を目指し、リスクマネジメントをテーマに令和2年2月度、施設内研修を開催。その研修内でKYT(危険予知トレーニング)シートを活用することで、グループ討議による演習ができ、資質向上に繋がった。今後も継続していく。

(2) 安全性の向上

- ① 福祉機器の定期安全確認として、車いす等の移動機器について各セクションでデータ管理することにより安全性向上に繋がった。また、ベッドの更新(15台)、多機能型車いす更新の依頼(5台分本人購入)、移乗用スライディングシートの新規(1つ)ができた。

12 身体拘束ゼロ委員会

(1) 身体拘束ゼロの推進

- ① 法人として身体拘束ゼロは継続して実施しており、事故リスクの軽減に努めている。「リスクマネジメント委員会」においても、積極的な課題解決を実施している。委員会は年3回、施設内研修は年2回開催することで、尊厳に対する配慮、高齢者虐待防止を図っている。
- ② 「不適切ケア」の根絶に向けて法人全体として意識の統一を図った。各セクションの会議内において、勉強会を実施することで理解を深め、日常のケアを振り返ることができた。9月には「不適切ケア防止」をテーマに認知症ケア委員会が中心となり施設内研修を開催し、職員の意識づけの強化を図った。

13 感染症対策委員会

(1) 感染症予防対策の強化(インフルエンザ、ノロウイルス等胃腸炎への対策)

- ① 6月の施設内会議では食中毒の感染予防対策について、11月の施設内会議ではインフルエンザ予防対策について施設内研修を実施した。
- ② 通年において職員や利用者、来館者に対して手洗いや手指消毒は勧めることができている。また、新型コロナウイルスが蔓延以降、職員の手洗い、手指消毒、マスク着用の徹底と家族等の来館も制限し、感染予防に努めている。
- ③ 淡路島圏域等における感染症流行時の対策を強化するため、早期の情報収集に努めた。
- ④ 通年は週2回、各セクションの環境に対する感染予防消毒を実施。感染症流行時には毎日消毒を実施した。
- ⑤ 利用者の健康管理については嘱託医、看護係が中心となり多職種協働により実施。変化があれば、迅速に各専門職に相談する体制を整えている。職員についても各セクション

において相談経路を明確にし、マニュアルに沿って健康管理に努めている。新型コロナウイルスが流行し始めてからは、職員は毎出勤時に検温を実施し体調管理をしている。

- ⑥ 湿度管理の徹底として、特にインフルエンザ予防対策としては、流行が懸念される時期において、各フロアに広範囲での効果が期待できる加湿器を新たに導入した。また、温度湿度計を設置し可視化することで意識付けすることができた。

(2) 感染症発生時の対策強化

- ① 高熱や風邪症状等により利用者の感染症が疑われる場合は、適時個室や静養室への居室変更を行うことで感染症蔓延防止に努めた。また、風邪等が複数人発生した場合には対象者専用の多床室を準備し隔離対応も行った。
- ② 感染予防マニュアルを新たに見直し、各セクションに設置している。
- ③ 利用者の体調不良等があれば、その都度嘱託医に報告し指示を仰いでいる。インフルエンザ等、感染症が疑われる場合も検査の指示を頂いている。
- ④ 感染症が発生した場合は、関係機関への報告が迅速にできるよう体制を整えている。

14 栄養管理委員会

(1) 健康保持増進への対応

- ① 栄養管理委員会は年7回開催、食事に対する意見や行事についての情報共有を行った。
- ② 利用者や職員からは、ご意見帳や直接意見を伺い、改善することで食べやすい安全な食事を提供することができた。

(2) 食を楽しむ計画作成

- ① 納涼祭では、カレーライス・唐揚げ・焼きそば等の屋台メニューを提供。ふれあい食事会では各フロア毎で3回開催し、家族と共にバイキングを楽しんでいただけた。また、もちつき会では、食べやすいようにぜんざいを提供した。
月行事としての喫茶コーナーでは、利用者の希望を聞き取りメニューに取り入れ提供することで喜んでいただけた。また、注文時にはサンプルを用意し選択しやすいように工夫した。

15 看取りケア委員会

(1) 看取りケアの充実

- ① 看取りケアの支援方法や行程、体制の更なる整備を目指し、嘱託医を交えてケアマニュアルを見直し更新することができた。また、委員会活動は年4回定期開催を実施する体制が整った。
- ② 「偲ぶ会」では、看取りケアのあり方と「死」について今一度考え直しながら意見交換を行うことで、今後のより良い看取りケアに繋げている。今年度は7名について偲ぶ会を開催することができた。
- ③ 令和2年1月の施設内会議にて看取りケアをテーマに施設内研修を実施。

(2) 快適に過ごせるための環境整備

- ① 環境整備を年度初めから行い、ソファベッドの導入等進めることができた。

最期を迎えられた居所	居室	静養室	個室
	3名	2名	2名

16 食と健康を考える会

(1) 安全且つ快適な食事環境への整備

① 毎月、身体状況表の見直しを行い、個々にあったテーブルや椅子を検討し使用してもらった。

② 食器や自助具の変更件数

1階フロア	10件	2階フロア	15件	3階フロア	7件
-------	-----	-------	-----	-------	----

③ 食事に時間がかかる利用者に関しては、先出しにし、時間をゆったりとすることで食事が楽しめるよう支援できた。

④ 8月に食事マニュアルの見直しを実施した。

(2) 協力歯科医師との連携による口腔ケアの実施

① 毎月、歯科医師による健診を実施。健診件数・治療件数は下記の通り。

1階フロア	2階フロア	3階フロア	治療
29件	46件	26件	37件

② 7月に口腔マニュアルの見直しを実施した。

(3) 食事ケア・口腔ケアにおける質の向上

① 外部研修に2回参加し、委員メンバーで情報共有して、各フロア職員へ周知した。

(4) その人らしさの追求と尊厳への配慮

① 毎月、委員会では食事用エプロンの見直しを行った。個々の検討を行うことで必要、不必要の確認と整理ができた。

② 食事については、その人に合った食事形態や自助具に変更し、食べやすい環境を提供した。口腔ケアについて、自身で歯磨きができる利用者は洗面所に案内し、口腔ケアを勧めることで健康維持に努めた。

17 排泄委員会

(1) 快適な排泄の実現

① 利用者に応じた排泄用具の検討、導入(定期尿量測定の実施)を年2回実施することで、定期的な見直しにより18名の利用者の排泄用具を変更した。紙パンツからコットンパンツへ、5名の利用者に対して見直しを行い快適性に配慮できた。

② オムツ交換対象の利用者8名に対して、新たにトイレへの案内を実施できるようになり、生活の質の向上に繋がった。

(2) スムーズな排便への取り組み

① スムーズな排便への取り組みとして、健康補助食品やサプリメント、乳製品の情報収集と検討、試行を実施してきた。今年度は79件の事例検討をした結果、42名の利用者に効果が表れた。

スムーズな排便への取り組み実施件数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	4(1)	2(2)	0	0	0	0	0	0	3(1)	3(1)	2(2)	1	15(7)
2階	2	4(1)	2(2)	7(6)	5(5)	2(2)	4(4)	8(3)	2	6(3)	4(3)	1	47(29)
3階	2	0	0	0	1(1)	0	1(1)	4(2)	1(1)	3	3(1)	2	17(6)

(3) 自立支援を踏まえた排泄ケアの実施

① 安全且つ統一された排泄介助の代替ケアを検討し、実施する事で年間9名の利用者についてトイレ案内が可能となった。

② 個人別排泄留意表の作成、更新を毎月行いながら、排泄用具や排泄ケア内容等の整合性を確認した。

(4) 排泄ケアの質の向上

① 委員会内で業者による研修会を開催し、おむつの当て方や新商品に関する知識を習得できた。また、食物繊維に関する研修会では、食物繊維の原料や使用の効果等を学んだ。

② 外部研修への参加はできなかったが、研修会で学んだ事をフロアで周知ができた。

(5) コストの削減

①各フロアの排泄委員が中心となり、排泄用具が適切に使用されているかを介助時に確認している。また排泄表の更新を毎週実施している。

②毎月、排泄委員長と業者が連携を図り在庫管理を実施し、使用量の把握をしている。

18 入浴委員会

(1) 安心、安全への配慮

① 6月と12月の入浴委員会終了後に浴室と脱衣所の大掃除を実施した。洗面台、排水溝、サッシ、ベッド回り、壁等、普段掃除が行き届かない場所を清掃することができた。

② シャワーの湯が安定しないため、水栓等を交換した。脱水予防のため冷蔵庫を設置し、脱水予防に努めた。入浴関連のリスクについては、委員会を通じ早急な対応をしている。

③ 物品の故障や破損等があったため、適時業者に修理依頼した。また、委員が中心となり、修理や物品購入も行い、在庫切れや不備のないよう取り組めた。

(2) 入浴ケアの統一化

① 5月に入浴マニュアルの修正を行い更新した。更新後は各フロアへの再設置を行い、入浴ケアの統一に努めた。

② 曜日別入浴表と貴重品所持者一覧表についての検討を行い変更した。また、新規利用者や退所者、状態変化時には各階入浴委員で検討し、速やかに定期更新書類の変更を行った。特別ケア対応者一覧表は見落とすことがあったため中止し、曜日別入浴表に直接記載するようにした。

(3) 「お風呂が楽しみ」への追求

① 5月と10月に入浴アンケートを実施し、個々の希望や好みの温度、入浴時間の希望に対応すべく曜日別入浴表を更新した。

- ② 昨年度の実施評価を参考に、季節湯を毎月第3日曜日から4日間実施した。また、ポスターを作成し、各階、エレベーター内に掲示した。季節湯については利用者から喜びの声を頂けた。
- ③ 環境面(音楽や室温)の配慮や入浴剤も適時併用し、いつでも快適な入浴をして頂けるよう積極的に取り組むことができた。
- (4) 肌ケアへの取り組み
 - ① 7月の入浴委員会で研修会を実施し、肌ケアに対する知識の習得に努めた。
 - ② 利用者3名への肌ケアを実施し、皮膚の油分・水分量を把握することができた。
 - ③ 肌ケアが必要な対象利用者3名には、専用シャンプー、ボディソープ、入浴剤、保湿クリームを使用した結果、皮膚を掻く事が減少し、痒みの軽減に繋がった。

19 認知症ケア委員会

- (1) 認知症に対する理解力の向上
 - ① 委員会内で研修会を開催し、4大認知症(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症・脳血管性認知症)の周知とパーソン・センタード・ケア(その人を中心としたケア)について、改めて深く掘り下げ、理解することができたが、全職員に発信することができなかった。
 - ② BPSD(認知症の行動・心理症状)について改めて理解するために委員会内で研修会を開催した。これにより、認知症に対するケアの在り方を再認識することができた。
 - ③ アニマルセラピーの実施
 - 1階は、5名に実施した。そのうち1名の方は小屋の掃除や水やり等を行う事ができた。飼育世話係の役割ができ日常の活性化に繋がった。
 - 2階は、8名の利用者が関わりを持つ事で笑顔に繋げる事ができた。
 - 3階は、2名の利用者が関わりを持ちうさぎと触れ合う事で喜ばれていた。実施中にうさぎが亡くなり、セラピーが中止となった。来年度は多様なセラピーを検討し実施したい。

(2) センター方式アセスメントの活用の推進

① マニュアルに沿ったシート活用の推進

1階フロア	1名	2階フロア	1名	3階フロア	2名
-------	----	-------	----	-------	----

センター方式アセスメントシート使用により、利用者の生活リズムや精神面の浮き沈みの原因研究、排泄や水分飲用量の分析に効果が得られた。

(3) 認知症ケアに対する振り返り

- ① 言葉かけ・不適切ケアのアンケートを実施。アンケートを元に身体拘束予防や不適切な言葉かけについて統計をとることができ、より良いケアへの推進に繋がった。
- ② 施設内研修において「不適切ケアについて」をテーマにグループディスカッションを実施。意見交換をする中で、普段のケアの振り返りとケアの見直しが図られた。また、身体拘束ゼロ継続に向け、不適切ケアの再認識とともに意識の統一にも繋がった。

(4) ふるさとツアーの実施

- ① 特養において各フロア1名ずつ、合計3名のふるさとツアーにとどまった。自宅や馴染みの場

所へ行くことで昔を懐かしむことができた。1階フロア、2階フロアでは思い出の写真を作成し、コミュニケーションツールとして活用する事ができた。

20 環境を考える会

(1) 「私らしさ」の追求

① 本人や家族、職員を含めた環境作り

〈1階〉 5ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

ラティスを撤去することにより、日が差し込むようになりフロアが明るくなった。

〈2階〉 2ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

木目で温かみのあるものになった。また、マグネットなので名札が落ちる可能性も減った。

〈3階〉 3ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

籠の設えにより洗剤を設置できた。衛生面でも良くなったと感じた。

〈デイ〉 10ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

自ら進んでチェックをする利用者が増え案内しやすくなった。

〈事務所〉 7ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

窓口対応もスムーズに移動できるようになった。

〈みどりの家〉 4ヶ所

《改善前》



《改善後》



《改善後の状況》

ソファの色を明るくすることで部屋の雰囲気明るくなった。

利用者・家族には、環境についてのアンケートを実施し、意見を聞くことができた。意見の中から早急に必要な内容は取り組み実施した。貴重なご意見が多く今後の課題となった。

② キャプションシート(環境評価シート)を活用し、他のセクションの評価を行った。各セクションの良いところ、悪いと感じられるところ、不思議だと感じられるところを違った視点から捉えることができた。特に悪いと感じられた場所は改善を行った。

(2) 環境アプローチの質の向上

① 外部研修への参加は該当するものがなかったため、参加することができなかった。「環境」「キャプション評価法」については委員会内で研修会を開催し、環境アプローチの質の向上を図った。

21 ポジ・トラ委員会(ポジショニング・トランスファー委員会)

(1) 利用者の安楽な姿勢や活動しやすい姿勢の保持

① 研修会を行い身体の構造の仕組み、動き等についての知識を深めることができた。また、安楽な姿勢や活動しやすい姿勢についての必要性や考え方、実施方法を学び実際のケアを見直す機会にもなった。

② ポジショニングシートを3名の利用者に活用し拘縮予防、床ずれの予防に繋げることができた。シーティングシートについては、7名の利用者に活用することで、車いすや椅子での姿勢の安定に繋がった。食事時の姿勢に関してもスムーズな摂取及び安全性向上に繋がった。

(2) 床ずれの予防と早期発見

① 床ずれの研修会を行うことで、床ずれの発生原因、好発部位、予防方法について改めて学び、知識を深めることができた。

② 発赤判定ツール使用の対象者がおらず、使用には至らなかった。

③ ポジショニングシートを活用し、安楽な姿勢の保持と適切な体位変換を行うことができたが、新たなクッション等の提案や導入は行うことができなかった。ベッド購入に伴い床ずれ(ステージⅢ)に対応できるマットを同時に導入することができた。

区分	完治	継続	退所	合計
床ずれ発生者数	6	1	1	8

(3) 利用者や職員への負担軽減

① 安全且つ負担軽減に向けた移乗方法の動画を参考にについて学ぶことで、適切な移乗方法を見つめ直す良い機会となった。また、実践することで利用者や職員の負担軽減にも繋げることができた。

② 移乗用リフトやスライディングボードの試行をすることで、スライディングボードについては今年度導入することができ、安全且つ負担軽減に繋げることができた。

22 広報委員会

(1) 職場環境における安全性の確保

- ① 緑風会ホームページを定期的に法人情報・緑風だより・求人情報等更新した。
- ② ブログやフェイスブックから施設内行事等の記事を年間37件発信した。

(2) ホームページ、パンフレットのデザイン変更について

- ① 緑風会ホームページを10月にリニューアルすることができた。
- ② 新たなパンフレットを作成する為の写真等を検討した。

23 衛生委員会

(1) 職場環境における安全性の確保

- ① 4S活動については各セクションごとに年間計画をたて実施した。
- ② 労働災害については「作業環境」「作業内容」「疾患等罹患リスク」について委員会で検討し、対応策を実施することで予防に繋げることができた。今年度の労働災害は2件あり、委員会で事故内容について検討した。
- ③ 施設内の床材等、劣化や破損している場所については各セクションで調査することで、補修箇所の把握ができた。補修箇所については随時補修した。
- ④ 感染予防対策については4S活動と連動し、職場内を清潔にすることで、感染予防の防止に努めた。

(2) 職員に対する心身の健康管理

- ① 年に2回健康診断を実施し、有所見者には2次検査受診を勧めることで、職員の健康維持に努めた。
- ② 年1回、全職員(82名)にストレスチェックを行ない、今年度は8名の高ストレス対象者という結果であり高ストレス対象者については、いつでも産業医に助言してもらえる体制をとって対応した。
- ③ 腰痛予防について、年1回、腰部保護ベルトの使用状況調査を行い、腰痛者を把握し産業医の意見をもと改善に努めた。腰痛ベルト使用率は前年度38.46%に比べ、今年度は4.04%増加した。腰痛ベルト使用者は下記参照。

	常用	頻繁	痛い時	ほとんど未使用	夜勤時のみ	未使用	使用率
腰部保護ベルト 使用者数 (総数80名)	10名	3名	15名	6名	0名	46名	42.50%

24 地域交流委員会

(1) 地域住民との交流

- ① 各地域老人会や各種団体の行事への参加(地域の祭り、梅まつり等)

区分	各種団体名	内容	職員参加人数
7/18	愛宕神社	清掃・準備協力	5
8/10	倭文ふれあい夏祭り	運営協力	4
9/1	ぼうさいカフェ緑	参加	3
9/15	広田敬老会	運営協力	1
11/2	全島一斉清掃	近隣清掃	7
2/8～3/8	広田梅まつり	運営協力	8
3/22	愛宕神社	清掃・準備協力	4
		神事参加	1

上表の通り、合計32名の職員が携わることで、不藤、広田南地区をはじめ、緑地区の住民との積極的な交流を図ることができた。

区分	各種団体名	内容	職員参加人数
7/14	広田公民館(消費者センター)	介護者教室	7
9/20	広田中学校	講義	5
9/22	倭文地区老人会	講義(介護保険)	3
10/11	徳原地区いきいき百歳対応	講義(介護保険)	5
10/27	緑風館内(モリト一(株))	介護者教室	5

上記のとおり地域住民へ福祉の担い手としての役割を果たすことができた。

(2) 地域支援

- ① 地域サポート施設活動として4月当初から3件増えてから3月31日現在で8件となった。独居高齢者の見守りの他にも介護保険では補えないサービスを行った。
 - ② 不藤、広田南地区の方々を中心に毎週木曜日9時30分から1階食堂を開放して、いきいき百歳体操の会場として利用して頂いた。参加者との茶話会も行い交流を図った。
- ### (3) 社会福祉法人としての公益性の遂行
- ① 外部研修や各法人にアンケートを行った。今後は生活困窮者への相談窓口として、法人のイベントに相談ブースを設置予定。ネットワークを通じて物品を提供し、支援する予定。ひきこもりの方に対して、職場体験を通じて外へ出る機会を作りたい。

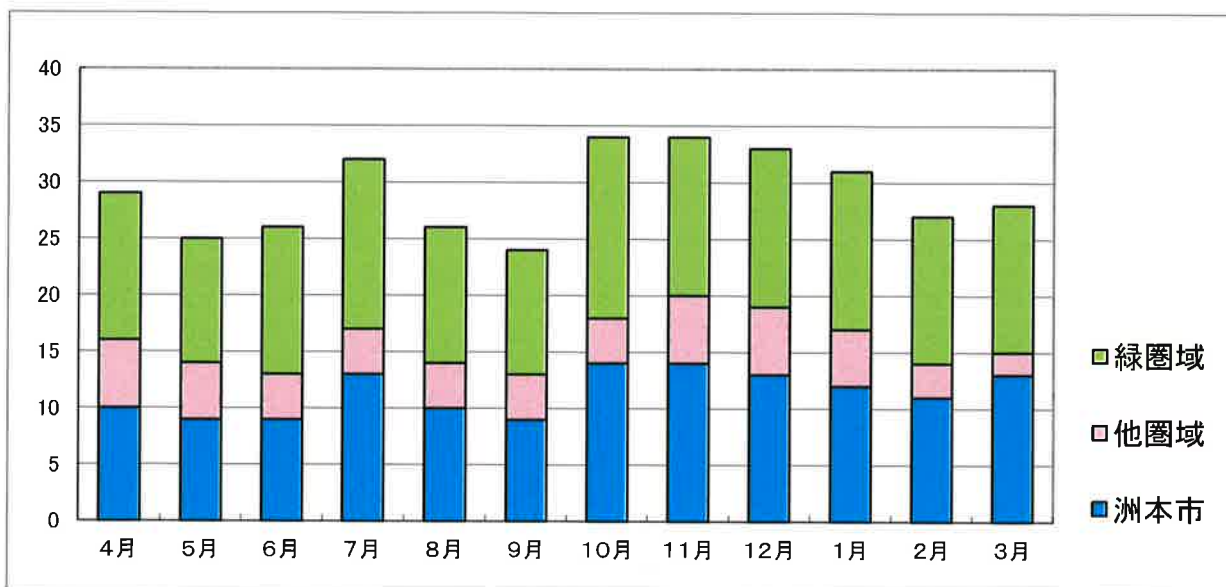
Ⅲ 短期入所生活介護事業

1 施設 の 概 要

- 〔1〕 名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- 〔2〕 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕 開 設 平成6年6月20日
- 〔4〕 設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 定 員 10名

2 市町別利用状況

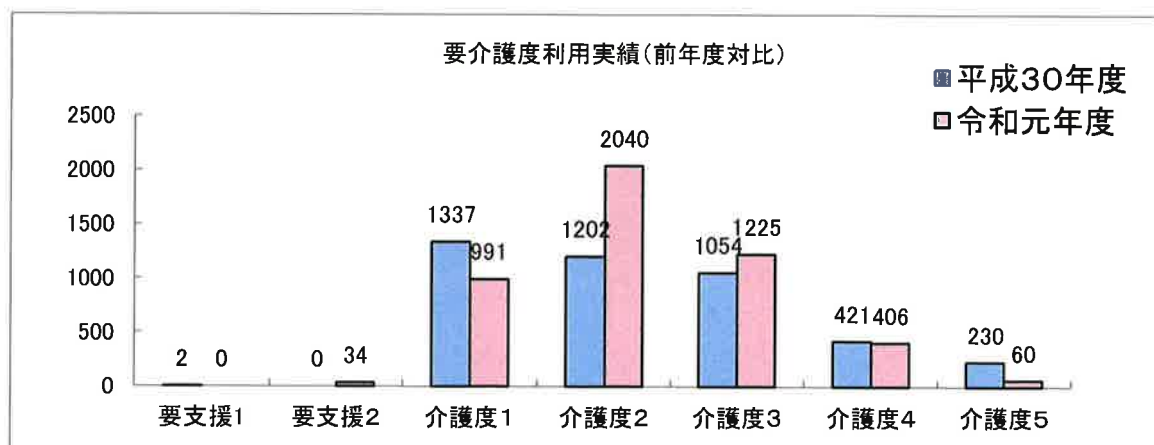
区分		令和元年度												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
南あわじ市	緑圏域	実人数	13	11	13	15	12	11	16	14	14	14	13	13	159
	緑圏域	延人数	196	210	185	201	198	169	196	190	177	173	155	176	2226
	他圏域	実人数	6	5	4	4	4	4	4	6	6	5	3	2	53
	他圏域	延人数	88	98	77	79	82	73	97	113	130	64	42	41	984
洲本市	実人数	10	9	9	13	10	9	14	14	13	12	11	13	137	
	延人数	70	92	87	133	134	115	154	165	199	157	111	129	1546	
実人数合計			29	25	26	32	26	24	34	34	33	31	27	28	349
延人数合計			354	400	349	413	414	357	447	468	506	394	308	346	4756



3 要介護度別利用実績

区分		30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
要支援2	人	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	4
	延	0	0	0	0	0	0	0	17	8	0	1	8	0	34
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.0	8.0	0.0	1.0	8.0	0.0	2.8
要介護1	人	101	12	8	8	10	8	7	10	8	7	4	6	5	93
	延	1337	118	84	104	111	111	86	88	67	64	48	55	55	991
	平均	13.2	9.8	10.5	13.0	11.1	13.9	12.3	8.8	8.4	9.1	12.0	9.2	11.0	10.7
要介護2	人	72	5	7	9	9	9	9	11	13	11	13	12	14	122
	延	1202	87	125	129	161	171	178	201	214	211	206	168	189	2040
	平均	16.7	17.4	17.9	14.3	17.9	19.0	19.8	18.3	16.5	19.2	15.8	14.0	13.5	16.7
要介護3	人	97	9	7	8	9	7	6	7	8	9	8	6	6	90
	延	1054	111	133	107	113	112	82	90	115	122	95	65	80	1225
	平均	10.9	12.3	19.0	13.4	12.6	16.0	13.7	12.9	14.4	13.6	11.9	10.8	13.3	13.6
要介護4	人	37	3	3	1	3	2	1	4	3	4	4	1	2	31
	延	421	38	58	9	26	20	8	48	62	75	34	9	19	406
	平均	11.4	12.7	19.3	9.0	8.7	10.0	8.0	12.0	20.7	18.8	8.5	9.0	9.5	13.1
要介護5	人	15	0	0	0	1	0	1	1	1	2	1	1	1	9
	延	230	0	0	0	2	0	3	3	2	34	10	3	3	60
	平均	15.3	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	3.0	3.0	2.0	17.0	10.0	3.0	3.0	6.7
合計	人	323	29	25	26	32	26	24	34	34	33	31	27	28	349
	延	4246	354	400	349	413	414	357	447	468	506	394	308	346	4756
	平均	13.1	12.2	16.0	13.4	12.9	15.9	14.9	13.1	13.8	15.3	12.7	11.4	12.4	13.7

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)



IV 通所介護事業

1 施設の概要

〔1〕名 称	緑風デイサービスセンター
〔2〕所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
〔3〕開 設	平成6年7月1日
〔4〕設置運営	社会福祉法人 緑風会
〔5〕利用定員	30名（令和元年9月1日～ 35名）

2 利用者状況

① 地区別利用者数

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
南 あ わ じ 市	広田広田	4	4	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4
	広田中筋	10	8	8	7	8	7	7	7	7	8	8	9
	山 添	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2
	中条中筋	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7
	中条徳原	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	中条広田	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	倭文庄田	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	倭文長田	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文土井	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2
	倭文安住寺	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	倭文神道	1	1	1									
	志知地区	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2
	市地区	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2
	榎列地区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
八木地区	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1
洲 本 市	前平・木戸・池内	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5
	宇 原	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	大 野	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	鮎 屋	6	6	6	6	5	5	5	5	6	6	6	6
	千 草	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	納	1	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	物部地区	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1
	上内膳・加茂・宇山	2	2	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4
鳥 飼	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計	60	62	61	61	62	62	62	61	61	59	58	60	

② 年齢別利用者状況（令和2年3月31日現在）

区分	60歳代	70～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合 計
支援	0	4	2	4	6	16
介護	1	0	9	18	16	44
計	1	4	11	22	22	60

3 生活相談員

(1) 在宅生活の継続支援

- ① 送迎時や電話連絡にて、在宅での状況を確認し、家族と情報共有を行った。
- ② ケアマネジャーからの依頼にて、担当者会議に参加し、情報共有を行った。また、状況に変化があった際には、情報共有のために担当者会議の依頼を行った。

(2) 利用率90%以上の達成と継続維持

令和元年度 実人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	22	22	20	23	22	21	23	21	21	20	20	22	257
新規	要支援	4	1		4	1				1		1	12
	要介護	3		1	1	2	1	1		2		3	14

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	実	10	10	11	11	10	9	9	9	8	9	9	9.6
	延	48	56	47	38	43	35	47	45	34	32	36	42.5
要支援2	実	8	8	7	8	8	9	9	9	9	9	7	8.4
	延	55	63	52	62	53	62	68	64	59	61	51	59.9
要介護1	実	21	21	21	21	23	23	23	23	23	20	23	21.9
	延	265	291	249	292	284	239	300	270	263	220	234	267.3
要介護2	実	12	13	12	11	9	10	10	9	10	12	12	10.8
	延	131	161	142	150	110	127	129	123	133	163	172	136.9
要介護3	実	6	7	7	7	9	8	8	8	7	5	4	7.2
	延	80	92	74	82	102	90	70	72	73	34	38	76.9
要介護4	実	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	2.2
	延	26	32	24	28	26	30	31	25	34	32	32	28.8
要介護5	実	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1.0
	延	4	5	4	4	4	4	4	4	2	3	0	3.8
総合計	実	60	62	61	61	62	62	62	61	61	59	58	60.8
	延	609	700	592	656	622	587	649	603	598	545	563	7330

4月～8月 30人定員	開所日数	109	1日平均	29.2	達成率97%
9月～3月 35人定員	開所日数	148	1日平均	28.0	達成率80%

- ① 担当ケアマネジャーへは、継続して毎月訪問し、利用実績と担当利用者の状況を写真入りで報告した
- ② 入院・利用休止者には、電話連絡やケアマネジャーに状況を確認した。
- ③ 個々に応じて半日利用や入浴のみ、短時間利用などを弾力的に調整した。(13名)
- ④ 新規利用者には、体験利用を実施してもらい、利用を促進した。結果11名のうち9名が利用に繋がった。
- ⑤ キャンセルの連絡時には、内容を確認し、訪問や再度連絡を行い状況により、振替利用などを提案した。

(3) 専門職としての資質向上

- ① 毎月1回、デイ会議を開催し、職員全員で利用者の支援や業務について意思統一を行った。
- ② 毎月の施設内研修に参加し、自己研鑽に努めた。施設外研修への参加は少なかった。
- ③ 5月に緊急時の対応、11月に感染症予防の研修会をデイ会議内で行った。
- ④ 個別シートにて、個々の年間目標を設定し、達成に向けての面談を行った。

4 介護係

(1) 自主活動・自立への支援

- ① 利用者自身に役割を担っていただくことで、在宅生活が継続できるよう意識づけをし、心身の機能維持に繋げた。(食事の配膳、おしぼり配り、おやつ準備、おしぼり巻、コーヒーの準備等)



おやつ準備



おしぼり巻

- ② わかりやすい表示「見える化」を心掛けることで、利用者自らが行動できるように支援した。
- ③ 利用者同士が助け合う姿も見られ、機能維持や認知症予防支援に繋げることができた。



- ④ 利用者自身の持つ力を活かしながら、ゆっくりと入浴できるように支援した。時間も午前と午後に設け、入浴剤の使用やゆず湯など、リラックスできる環境も継続して行った。
- ⑤ 行事や季節に合った食事を提供し、利用者にも季節を感じてもらうことができた。
- ⑥ 食事前には、嚥下体操(パタカラ体操)を実施。食後には、うがいを実施して頂き、嚥下機能の維持、口腔ケアに努めた。
- ⑦ パテーションやカーテンなどを設置し、プライバシーへの配慮を行った。

(2) 衛生管理・感染予防

- ① 職員は、出勤・退勤時に手洗い・消毒を行い、感染予防の意識を持ち、健康管理に努めた。今回の新型コロナウイルス発生時には、利用者・職員の体温測定や体調管理に留意している。

(3) 社会参加への支援

- ① デイサービスを利用し役割を担っていただくことで、利用者自身の意欲向上、できることの発見ができ、活気ある生活に繋げることができた。
- ② 利用時には、職員や他の利用者との交流を図り、笑顔が見られた。
- ③ 地域貢献として、利用者の方が雑巾を手縫いし、地域の保育園、小学校に贈呈した。



- ④ 施設外での昼食や喫茶に参加し、違った雰囲気での飲食を楽しまれた。また、外出することで地域や季節の移り変わりを感じることができた。(クラブ・年間行事を参照) 地域交流として、トライやるウィークや大学生の介護等体験の受け入れも行い、利用者・職員との交流も図れた。



5 機能訓練指導員

(1) 個別・集団機能訓練

個別機能訓練加算人数

「要支援訓練加算」 生活機能向上グループ加算：100単位 運動器機能向上加算：225単位/月

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活機能向上	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
運動器機能向上	12	12	12	13	12	13	13	15	12	14	12	12	152

「要介護個別訓練加算人数」 個別機能訓練加算Ⅰ：46単位 /人 個別機能訓練加算Ⅱ：50単位/人

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
個別機能Ⅰ	実	41	42	42	41	44	44	43	42	42	39	42	43	505
	延	477	530	454	541	498	472	527	484	464	465	482	529	5923
個別機能Ⅱ	実	12	15	15	14	15	12	10	13	13	12	12	12	155
	延	189	203	175	206	175	177	176	160	152	150	154	162	2079

「認知症加算人数」 認知症加算：60単位 /人

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実	6	7	8	8	10	9	9	9	9	7	6	6	94
延	89	97	83	102	84	75	97	88	88	50	66	74	993

- ① 利用者ができることを見つけ、取り組むことで、意識の向上・自立支援へ繋げた。
- ② 利用者・家族のニーズを初回訪問時や定期訪問にて把握し、計画に取り入れた。
- ③ 個々の状態を把握し、座る・立つ・歩く等の身体機能が維持・向上できるよう訓練を実施した。



起立訓練



階段昇降

- ④ ニーズに応じて複数の機能訓練を組み合わせ心身機能の維持・向上を支援した。



自転車こぎ



踏み台昇降

- ⑤ 調理や洗濯、掃除の活動、役割づくりを通して社会参加・心身機能の向上を支援した。



食器洗い



裁縫



調理

⑥ 5人程度の小集団や個別での訓練を実施。



平行棒運動



歩行運動



体幹運動

⑦ 集団レクリエーションや創作活動を通して、上肢・下肢運動、記憶・集中力運動を行った。



風船バレー



計算プリント



書道

6 看護係

(1) 安全、安心な環境への取り組み

- ① 来館時、昼食時、おやつ前には、手洗い・消毒を励行し、感染予防に努めた。
- ② 食後には、うがいを励行し、口腔ケアを行った。
- ③ フロアに温度・湿度計を設置し、湿度が低い時には、加湿器を使用し、乾燥予防に努めた。
- ④ デイサービス終了後には、机や椅子、使用した物品の消毒を実施した。
- ⑤ 週2回、床を次亜塩素酸ナトリウム溶液で清掃した。
- ⑥ インフルエンザ等の感染流行時には、玄関フロアにて体温測定を行い、体調変化に早めに対応した。また、利用者・家族へ文書等にて、予防の協力を依頼した。

7 クラブ活動

クラブ活動は、利用者が選択できるよう、4メニュー用意し活動参加している。



缶倒しゲーム



ベンチホッケー



トランプ・かるた



工作



棒投げ入れ



園芸

裁縫で、ティッシュカバーを作成。ケアマネジャーへプレゼントした。



8 年間行事

外出行事や季節に応じた行事を実施し、利用者の笑顔を引き出すことができた。



花見(鮎屋ダム)



喫茶外出(日洋堂)



七夕まつり



買い物外出



倭文小学校交流会



夏祭り



運動会



昼食外出(あみあみ)



秋の行楽(伊弉諾神宮)

裏庭で育てた野菜を調理して、食べました。



野菜の収穫



ポテトサラダ



鍋パーティー

V 小規模多機能型居宅介護事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 みどりの家
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
- [3] 開 放 平成21年4月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
- [6] 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)
建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
建物延面積 372.48㎡

2 管理者

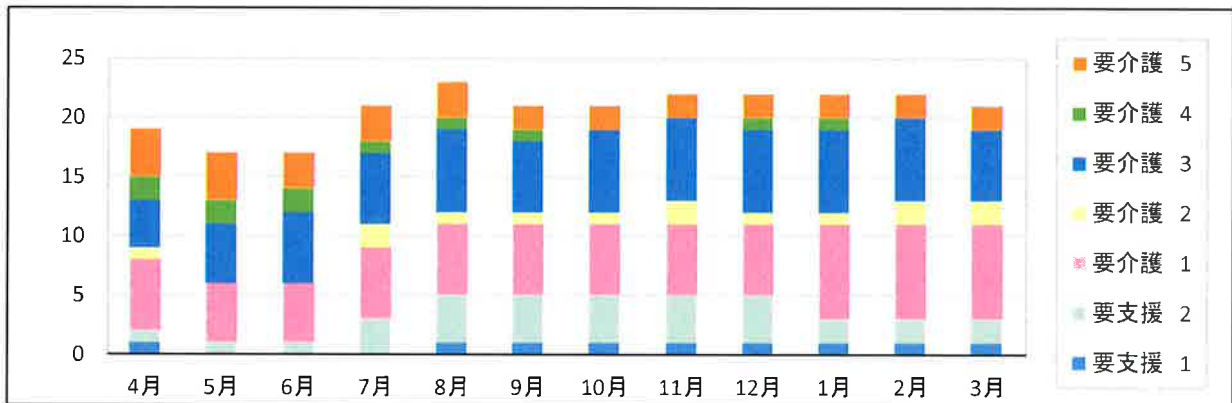
(1) 目標登録件数の確保

① 登録者20名(介護16名 支援4名)の確保

【 登録者数 】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
要支援 1	1				1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要支援 2	1	1	1	3	4	4	4	4	4	2	2	2	2.7
合計	2	1	1	3	5	5	5	5	5	3	3	3	3.4
要介護 1	6	5	5	6	6	6	6	6	6	8	8	8	6.3
要介護 2	1			2	1	1	1	2	1	1	2	2	1.4
要介護 3	4	5	6	6	7	6	7	7	7	7	7	6	6.3
要介護 4	2	2	2	1	1	1			1	1			1.4
要介護 5	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2.6
合計	17	16	16	18	18	16	16	17	17	19	19	18	17.3
総合計	19	17	17	21	23	21	21	22	22	22	22	21	20.7

・7月以降、登録者20名以上確保することが出来た。



【 サービス実績 】

サービス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通 所 (1日あたり)	453 15.1	419 13.5	373 12.4	437 14.1	483 15.6	427 14.2	445 14.4	445 14.8	452 14.6	451 14.5	427 14.7	411 13.3	435 14.3
宿 泊 (1日あたり)	227 7.6	189 6.1	176 5.9	211 6.8	238 7.7	185 6.2	188 6.1	192 6.4	204 6.6	233 7.5	202 7.0	178 5.7	202 6.6
訪 問 (1日あたり)	151 5.0	121 3.9	70 2.3	55 1.8	87 2.8	77 2.6	82 2.6	107 3.6	112 3.6	94 3.0	93 3.2	87 2.8	94.7 3.1

② 事業所活動の情報発信は、毎月地域ケア会議に出席し民生委員等にみどりの家の紹介ができた。また、倭文地区老人会や徳原のサロンに出向き実施することができた。

(2) 施設サービスの充実

- ① 職員の知識向上については、11月に1名がレクリエーションの外部研修に参加した。来年度は、多くの職員が研修参加できるように推進していく。
- ② 満足度調査については、調査内容が定まらず実施未達成となった。
- ③ 年6回の運営推進会議を開催した。写真を使用してわかりやすく活動報告することができた。
- ④ 年間行事で予定している外出行事や、日々のレクリエーションでのドライブで外出支援した。
- ⑤ 4月～1月の計10回地域ケア会議に出席する。2月、3月は新型コロナウイルスの影響で会議が中止となった。
- ⑥ 1月17日、広田中学校との合同避難訓練を実施した。利用者8名、職員4名が参加し、生徒達の協力で、車椅子の利用者2名が階段を使用して校舎3階まで避難した。
- ⑦ 地域交流として、毎月第2木曜日に『ウインズ・きらら』がパンの移動販売時には、地域の方が10名程来所されパンを購入した後は、施設で休憩をし地域のサロンの役割を果たした。年間行事には、緑老人クラブさわやかサークル、山添なかよし会、つくしの会、グリーンポエム等、地域のボランティアの方々が来所し交流を図れた。

3 介護支援専門員

(1) 24時間、365日その人らしい暮らしへの支援

- ① 食事、入浴のみの通いサービス利用や、利用者に合わせて送迎時間に対応し、ライフスタイルに合った支援をした。
- ② 毎日夕食後までの通いサービスをすることで、在宅生活を続けられるよう支援した。また、要支援者の方でも毎日利用や支給限度額を超える心配なく利用していただけた。
- ③ 緊急時には、台風やご家族の急用等で急遽宿泊のサービス調整をした。また、体調不良時にも柔軟にサービス調整を行った。
- ④ 入退院時には、介護情報提供書を作成し、計9回医療機関に情報提供を行った。
- ⑤ 新規利用者や状態変化した利用者とのカンファレンスを実施した。

4 看護係

(1) 感染症の発生・まん延予防

- ① 感染症(インフルエンザ)予防・防止マニュアル作成し職員に周知徹底した。
- ② 毎月の職員会議にて、手洗い消毒の励行を推奨した。また、室内換気を一日4回実施。乾燥時期には加湿器を3台設置することで職員、利用者共にインフルエンザ罹患者がなかった。2月から国内で新型コロナウイルス感染症蔓延により手洗い、手指消毒、マスク着用を強化し、徹底して感染拡大防止に努めている。
- ③ 南あわじ市広域消防の隊員を講師に招き心肺蘇生法・AED使用講習会を実施した。また、地域の方にも参加していただき13名の方が受講できた。

(2) 体調管理の支援

- ① 新規利用時には既往歴の確認を行った。内服薬は、利用者個々の服用一覧表と薬の効能表

を作成した。

- ② 医療機関受診時、介護情報提供書を作成した。14名の利用者に96件の情報提供ができた。
- ③ 看護情報提供書を作成することにより本人、ご家族が伝えきれない情報を提供し、医療機関との連携を強化することができた。

5 委員会活動

(1) 食事委員会

- ① 夏期はトマトやゴーヤ等、冬季は小松菜やカブを栽培し収穫した野菜をメニューに取り入れた。
- ② 個々の身体状況に合わせた刻み食(4名)、ミキサー食(4名)を提供した。
- ③ 適宜食器棚、食品棚の整理整頓と冷蔵庫の食品チェックを行い衛生管理に努めた。

(2) 介護委員会

- ① スライディングシートを使用し移動・移乗・体位交換を行うことで、利用者・介助者双方にとって安心、安全な介護ができた。
- ② 事故、各種発見報告書より分析と個別ケア検討を実施し再発防止に努めた。

【各種発見】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	1	1						1	1	1		1	6
転落				1	1								2
皮めくれ				1						1			2
打撲				1									1
無断外出	1											1	2
合計	2	1	0	3	1	0	0	1	1	2	0	2	13

【ひやりハット】

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転落			1	1									2
紛失						1							1
怪我		1		1			1						3
無断外出		1		1				1					3
異食		1	1					2					4
医療				2									2
その他		1			1	1					1		4
合計	0	4	2	5	1	2	1	3	0	0	1	0	19

【事故報告書】

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院有無
1	平成31年4月28日	転倒	右大腿骨骨折	女	伊月病院	有
2	令和1年5月11日	不明	左大腿骨骨折	女	翠鳳第一病院	有
3	令和1年7月3日	転落	頭頂部腫脹	女	伊月病院	無

- ③ 法人が実施する施設内研修に参加しスキルアップを図った。外部研修には参加できなかった。

(3) レクリエーション委員会

- ① 毎日身体を使った体操や脳トレーニング、季節に合った工作や裁縫等の趣味活動を行い楽しみ生きがいを持ったレクリエーションを行った。希望が多いドライブを多く取り入れ気分転換を図った。

- ② 昼食前のラジオ体操、14時の集団体操を毎日行い身体機能維持・向上を図った。
クイズや音楽、リズム体操等楽しく脳を活性化するプログラムを取り入れ認知症予防を行うことができた。
- ③ 年間行事にある外出会では、『吉野家』『はま寿司』『たこせんべいの里』へ、気候の良い時期には『サンライズ』『イングランドの丘』へ行くことができた。
『広田小中運動会』『緑文化祭』『広田蛭子神社十日戎』など、地域の行事に出掛けた。

6 年間行事

みどりの家 年間行事



4月
お花見



6月
外出会【たこせんべいの里】



7月
七夕祭り



8月
夏祭り【さわやかサークル】



9月
敬老会【山添なかよし会】



10月
外食会【吉野家】



10月
運動会



11月
緑文化祭



12月
クリスマス会



12月
もちつき会



1月
Chizuru&二郎さん来所



2月
豆まき会【つくしの会】

地域交流・外出行事等の紹介



サンライズ



グリーンポエム



倭文小交流会



心肺蘇生法・AED講習会



イングランドの丘



広田蛭子神社十日戎



広田小中保合同避難訓練



夜間想定避難訓練



広田梅林散策



ドライブ



みどりの家 野菜栽培準備



昼食作り

VI 居宅介護支援事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会 緑風館
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成11年10月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 併設施設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 介護支援専門員

(1) ケアプラン作成件数の目標

① 要介護者は5月以外は目標の75件以上となった。要支援者は65件以上となっている。

区 分		30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
予 防 プ ラ ン	要支 援1	洲本	94	6	6	5	4	4	6	6	5	5	5	4	61	5.1	
		南あわじ	333	33	33	34	34	34	34	34	33	33	33	34	35	404	33.7
	要支 援2	洲本	61	6	6	6	6	5	5	6	6	6	6	6	6	70	5.8
		南あわじ	337	24	24	24	23	23	22	22	24	24	24	23	22	279	23.3
	合 計		825	69	69	69	67	66	67	68	68	68	68	68	67	814	67.8
介 護 プ ラ ン	要介護1	398	34	32	32	33	36	37	37	38	39	36	40	39	433	36.1	
	要介護2	206	19	21	21	24	22	21	21	21	20	22	23	23	258	21.5	
	要介護3	169	15	16	16	15	16	14	12	14	12	12	13	13	168	14.0	
	要介護4	64	3	4	4	3	5	6	8	8	7	9	7	7	71	5.9	
	要介護5	23	0	0	1	2	2	2	2	2	3	3	2	2	21	1.8	
	合 計		860	71	73	74	77	81	80	80	83	81	82	85	84	951	79.3

② 地域包括支援センターとの連携件数は11件、医療機関と連携件数は3件であった。

③ 3か所集いの場と、8か所の商店や公民館にパンフレットを配布し周知した。

広田地区	広田公民館で介護者教室、徳原いき百体操会場
	広田公民館、ウエルシア緑店、萩原コロッケ店、伊達精肉店 スーパーはりまや、ヘアサロンやすい
倭文地区	倭文地区老人会・倭文郵便局

(2) 住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるための支援

① 更新・状態変化があった対象者は全員アセスメント実施した。

② 介護保険外のサービスを組み合わせたプランは37件であった。

介護保険外サービスの内容は、いき百、配食、オムツ支給、移送サービスなどである。

介護保険では補えない部分のサービスを提案したり、小規模多機能施設の利用を提案したり、利用者の状態に応じた、本人らしい生活ができる支援に結びつけるようにした。

③ 年1回事業所のパンフレットの整理と更新を行った。

④ ケアプラン作成の内、かかりつけ医へのケアプラン提示は70件であった。

医療依存度が高い利用者を中心にケアプランを提示し、在宅生活の維持のための情報を共有した。加算状況については、以下の通りである。

区 分		30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予防 プラン	初回	19	4	1	1	1	2	2	1	3	1	2	1	3	22
	小規模連携	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
介護 プラン	初回	20	4	3	2	4	6	3	3	4	4	3	7	4	42
	医療連携Ⅰ	15	0	1	0	1	3	0	1	5	0	1	2	2	16
	医療連携Ⅱ	3	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4
	退院	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小規模連携	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	特定事業所Ⅲ	145	0	0	0	77	81	80	80	83	81	82	83	84	731
合 計		213	6	4	2	84	94	86	85	96	87	88	93	93	818

⑤ 入退院時の医療機関との連携は、39件であった。入退院があった利用者に対しては、医療機関との情報共有できている。

⑥ 毎月、提供票を持って利用事業所へ行っている。情報収集をしている。

(3) 緊急時の体制の整備

① 南あわじ市医師会の行っているバイタルリンクを導入し、情報の共有が行える体制を構築した。

② 体調が急変した利用者などは、かかりつけ医と連携を行い体調を維持した。

③ 新規利用者の基本情報シートは作成したが、継続中の利用者基本情報シートの更新はできなかった。

(4) 介護保険制度の周知と理解、事業所の広報

① 法人職員では7月13日介護者教室、近隣住民では9月21日倭文地区老人会と、10月10日徳原いきいき百歳体操地区、医療機関では翠鳳第一病院と淡路医療センター、伊月病院にて介護保険の周知と居宅介護支援事業所の広報を行った。

② 在宅介護支援センターと協力して、倭文地区老人会、徳原いきいき百歳体操地区にて介護保険制度の周知を行った。

③ 倭文地区老人会、徳原いきいき百歳体操地区の地域の集まりの場へ参加し広報した。

(5) 利用者、家族に満足していただける事業所作り

① 地域包括支援センターから、他の居宅支援事業所から困難ケースの依頼が3件あり、受け入れた。

② 週1回の連絡会を通じて、各担当利用者の状況を把握した。夜間や休日など担当ケアマネがない時でも、担当利用者一覧表を用いて事務職員や宿直職員から担当ケアマネへ連絡をスムーズにすることができた。

③ ヘルパーへのサービス内容の苦情が2件あり、管理者や主任ケアマネが立会い対応した。

④ 3月に自己評価を実施し、他のケアマネからの評価も参考にし質の高いケアマネジメントを行うようにした。

⑤ 毎月の南あわじ市・洲本ケアマネ会に出席し、情報収集と研修を行った。利用者、家族が満足できる支援について自己研鑽できた。

VII 在宅介護支援センター

1 施設の概要

- 〔1〕 名 称 緑風在宅介護支援センター
- 〔2〕 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕 開 設 平成6年6月27日
- 〔4〕 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕 設置施設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 ソーシャルワーカー

(1) 相談窓口体制の整備

- ① 相談者宅訪問、オムツや配食サービスのアセスメント調査時、いきいき百歳体操支援認知症サポーター養成講座開催時は、パンフレットを用いて業務内容の周知と広報を行った。

区 分	30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
開所日数	251	23	23	21	23	23	17	23	26	20	20	19	19	257
訪問回数	84	2	5	3	3	5	5	4	4	4	21	21	5	82
オムツ調査	28	0	2	0	1	1	2	2	2	2	10	19	4	45
配食調査	16	0	1	0	0	2	1	0	0	0	9	1	0	14
いきいき百歳体操	17	0	1	0	1	1	2	3	0	0	1	1	0	10
認知症サポーター養成講座	10	0	0	6	1	1	1	3	4	0	2	0	0	18

- ② 年3回の在宅介護支援センター新聞を発行した。いきいき百歳体操、認知症サポーター講座、民生委員、広田と倭文の交流センターへ配布し周知した。
- ③ 地域包括支援センターや民生委員、警察や介護保険サービス事業所と連携するために月1回の緑地区地域ケア会議や地域包括在介連絡会、緑地区民生児童委員連絡会を通じて支援者への迅速で柔軟な対応を図った。高齢者の身近な相談窓口としての認知ができた。
- ④ サロンへの参加はなかった。いきいき百歳体操には、延べ10回訪問して、在宅介護支援センターの内容について説明を行った。

(2) 認知症でも安心して生活できる地域づくり

- ① 認知症サポーター養成講座は目標より6回上回り、18回開催できた。
- ② 認知症サポーター養成講座開催時には、認知症の方やその家族への支援体制があることを周知することができた。(認知症カフェ・家族会)

(3) 地域の支援体制の整備、課題解決への対応

- ① 月1回の緑地区地域ケア会議の運営、司会を行い、多職種間の支援者の顔が見える

関係作りに構築することができた。

② 緑地区地域ケア会議にて、地域課題として、買い物、通院などの交通移動手段の課題があがった。

③ 地域包括や病院職員、民生委員との顔合わせた地域ケア会議で、より具体的な支援体制を確認し、迅速な支援に結びつけることができた。

(4) 地域包括支援センターとの連携

① 配食サービスのアセスメント調査を行い、在宅の生活状況を確認し連携を図った。

② 紙おむつ支給のアセスメント調査を行い、在宅の生活状況を確認し連携を図った。

③ 見守り件数は少なくなっている。今後は、介護保険サービスに結びつけていない高齢者の見守り支援があることを、住民に周知していく。

区 分	30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
継続見守り	40	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	1	23